

中学校
社会科歴史的分野

②⑤身近な地域の歴史
— 広陵町・馬見古墳群の学習を通して —

学習のねらい

- 自分たちが生活する広陵町にある馬見古墳群について、4～5世紀に築造された古墳が250基以上集まる大古墳群であることを理解する。
- 広陵町と他地域の古墳や歴史的事象を比較したり関連付けたりし、古代における広陵町の歴史的な特徴について、古墳の調査活動を通じて多面的・多角的に考察し、表現する。
- 学習した内容から、さらに疑問をもったことや調べたいことを整理し、主体的に課題解決に取り組もうとする。

郷土の資源について

馬見古墳群は奈良盆地における佐紀盾列古墳群、大和柳本古墳群と並ぶ大和3大古墳群の1つで、4～5世紀に築造されたものが多く、250基を超える大古墳群である。広陵町においては、平成15年、嵯山古墳から出島状遺構が発見され、出島状遺構からは様々な埴輪類が数多く出土した。

また、広陵町では、この埴輪類の保存、古墳の復元整備や石室内部の見学を実施するなど文化財の保存に取り組んでいる。

学習指導要領上の位置付け

〔歴史的分野〕 2 内容
A 歴史との対話 (2) 身近な地域の歴史

学習の流れ

1. 馬見古墳群について学習問題を設定し、資料等を使い調べる。

2 時間



2. 馬見古墳群の見学で、調べたいことをまとめる。【本時】

1 時間



3. 馬見古墳群を見学する。

3 時間



4. 学習問題について調べたことをまとめ、振り返りを行う。

1 時間

展開例（本時 2 / 7）

	学習活動	指導上の留意点（※評価規準）	備考
導入	○本時の活動を知る。	○次時に、広陵町の馬見古墳群を見学すること、特に牧野古墳の石室や、復元された三吉石塚古墳の見学ができることを伝える。	事前に広陵町文化財ガイドと見学内容の連携を図る。
	前時まで学習した内容について、さらに疑問に思ったことを出し、疑問を解決するために、馬見古墳群の見学で調べたいことをまとめよう。		
展開	○前時まで学習したことを振り返る。	○古代における広陵町や馬見古墳群について、学習した内容を振り返らせる。 ○ワークシートに書き込んだ内容を整理させる。	ワークシート
	○学習してさらに疑問に思ったことを出す。	○PC等の情報共有機能を用い、個人の疑問を学級全体で共有する。 ○予想される生徒の反応 ・石室はどのようになっているのか ・古墳の規模はどれくらいか ・古墳の表面はどのようになっているのか ・どのように古墳や埴輪の保存に取り組んできたのか	PC等
まとめ	○馬見古墳群で調べたいことをまとめる。	○次時の馬見古墳群の見学につなげるために、次のような視点で整理させる。 ・古墳の外観 ・石室の特徴 ・広陵町の文化財保存の取組 ○次時の見学は、本時にまとめた疑問を解決するための調査活動であることを確認する。 ※学習した内容から、さらに疑問をもったことや調べたいことを整理し、主体的に課題解決に取り組もうとしている。	ワークシート

発展的な学習の例

・総合的な学習の時間で、身近な地域の歴史について探究的な学習を行う際、社会科で獲得した知識を活用する。

参考文献等

・広陵町史
・広陵町 Web サイト
https://www.town.koryo.nara.jp/contents_detail.php?frmlid=26